

W023 天竜川河原の礫（静岡県GEO DATA (20) :
地学散歩(99))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠, 賢司, 延原, 尊美, 熊野, 善介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027677

W023 天竜川河原の礫



国土地理院 地理院地図（電子国土Web）

静岡県内の五大河川の一つである天竜川（延長213km、日本全国9位）は、長野県諏訪湖を南下し、静岡県の山岳地帯を駆け抜け、遠州平野を経て太平洋（遠州灘）に注ぎ込む一級河川である。天竜川流域には、日本最大の断層である中央構造線が存在し、その大断層の西側（内帯）には領家帯、東側（外帯）には三波川帯、秩父帯および四万十帯がある。また流域には新第三紀の火山岩からなる奥三河高原などがある。山間部から平野に入ると、河床の傾きは急に緩やかになる。飛竜大橋周辺の河原はこのような傾斜変化点にあたり、洪水時に上・中流域の様々な地質帯から運搬されてきた礫が大量に集積されている。ここでは、火山岩（流紋岩、安山岩、玄武岩）、半深成岩（斑岩、輝緑岩）、深成岩（花崗岩、閃緑岩、ハンレイ岩、カンラン岩）、変成岩（片岩、片麻岩、ホルンフェルス、圧砕岩）、堆積岩（礫岩、砂岩、頁岩、粘板岩、凝灰岩、石灰岩、チャート）など様々な岩石の礫を観察できる。このように一箇所でこれだけ多くの種類の岩石を手にとれるのは、プレート収束域で起こる地質現象の多様性とそれを縦断する急流河川という組み合わせがあるからこそである。飛竜大橋周辺の河原は、世界に誇れる天然のハンズオン型岩石博物館と言えよう。

（楠 賢司・延原尊美・熊野善介）